

アゼルバイジャン周辺の諸国

2019 年 3 月 10 日

(修正版) 4 月 7 日

非同盟諸国首脳会議が、2019 年に「アゼルバイジャン」で開かれることになった。同首脳会議が「旧ソ連圏」で開かれるのは始めてとのことである。日本 AALA の機関紙でも報じられているが、ここでは、政治的に微妙な位置にある「アゼルバイジャン」と周辺諸国の情報を所属組織の点から整理した。

【非同盟運動参加国】NAM (Non-Aligned Movement)

1961 年に設立され、2016 年の時点で参加国は 120、オブザーバー参加国は 17、オブザーバー参加組織は 10。3～5 年間隔で開催されている非同盟諸国首脳会議（前回 は 2016 年にベネズエラで開催）の他、非同盟諸国外相会議、常設の非同盟諸国常任委員会などがある。

【民主主義と経済発展のための機構】GUAM

民主化の促進と市場経済による経済発展を共通の目標とする 4 カ国（ジョージア、ウクライナ、アゼルバイジャン、モルドバ）によって、1997 年に創設された、対話と協力のための地域フォーラム。

加盟国は全て旧ソビエト連邦構成国であり、反ロシア的な性格を持つ。事務局をウクライナのキエフに置く。なお、1999 年から 2005 年まではウズベキスタンも加盟していたため、GUUAM という名称であった。

【民主的選択共同体】CDC

ウクライナ、グルジアが 2005 年 8 月「ボルジョミ宣言」を出し、2005 年 12 月に組織された、独立国家共同体(CIS)に対抗する地域機構。バルト海から黒海にまでの地域に、ロシアの影響を脱した民主的国家の共同体を作ろうとするもの。CDC 参加国は、ウクライナ、グルジアのほか、エストニア、ラトビア、リトアニア、モルドバ、ルーマニア、マケドニア、スロベニア。オブザーバー参加は、アゼルバイジャン、ポーランド、ブルガリア、チェコ、ハンガリー、アメリカ、EU、OSCE（欧州安全保障協力機構）。EU と上海協力機構の間に位置するものとの解釈もある。

【独立国家共同体】CIS (Commonwealth of Independent States)

ソ連崩壊時に、ソビエト社会主義共和国連邦を構成していた 15 カ国のうちバルト 3 国を除く 12 カ国（発足当初は 10 カ国）によって結成されたゆるやかな国家連合体（コモンウェルス）。当時の欧州共同体（EC）型の組織をモデルにしたが、独自の憲法や議会は持っていない。本部はベラルーシの首都ミンスクに置かれている。

2018 年現在、独立国家共同体（CIS）に加盟しているのはロシア、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、キルギス、ベラルーシ、アルメニア、アゼルバイジャン、モルドバの 9 カ国である。

その後、2011 年 10 月 18 日、CIS 加盟国のうちロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、モルドバ、アルメニアの 8 カ国によって自由貿易協定（FTA）が締結され、独立国家共同体自由貿易地域が成立した。2012 年 9 月にはロシア、ベラルーシ、ウクライナの 3 カ国が批准を行ったために条約が発効し、2012 年末までにはカザフスタン、アルメニア、モルドバも批准を完了した。2013 年 12 月にはウズベキスタンが条約に署名し、その後批准した。署名したうちで残る 2 つの未批准国であるキルギスとタジキスタンも、2014 年 1 月と 2015 年 12 月にそれぞれ批准を済ませた。こうして、CIS 自由貿易協定の加盟国は 9 カ国となり、CIS 内で自由貿易協定に参加していないのはアゼルバイジャンのみとなった。

【欧州連合】EU (European Union)

1951 年署名のパリ条約によって設立された欧州石炭鉄鋼共同体に事実上の起源を持つ、欧州連合（EU）に加盟している 28 の主権国民国家。原加盟国数は 6 で、その後 7 度の拡大が繰り返された。その拡大の中でも 2004 年 5 月 1 日のものは 10 カ国が加盟する最大のものであった。欧州連合は 21 の共和国、6 つの王国、1 つの大公国で構成されている。

現在の加盟国は、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、イギリス。

【北大西洋条約機構】NATO (North Atlantic Treaty Organization)

北大西洋条約に基づき、アメリカ合衆国を中心とした北アメリカ（＝アメリカとカナダ）およびヨーロッパ諸国によって結成された軍事同盟である。29 カ国が加盟し、マケドニア共和国の加盟を承認済み。非加盟のスウェーデン、フィンランドや日本など非加盟国とも協力関係にある。前身はブリュッセル条約（1948 年）。ベルギー首都ブリュッセルに本部を置く。

現在の加盟国、アイスランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、オランダ、カナダ、デンマーク、ノルウェー、フランス、ベルギー、ポルトガル、ルクセンブルク、ギリシャ、トルコ、ドイツ、スペイン、チェコ、ハンガリー、ポーランド、エストニア、スロバキア、スロベニア、ブルガリア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、アルバニア、クロアチア、モンテネグロ。

【中央アジア協力機構】OCAC、CACO (Central Asian Cooperation Organization)

1991 年に、中央アジアのカザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、トルクメニスタンとウズベキスタンによって結成された中央アジア連邦 (Central Asian Commonwealth: CAC) を母体とする。その後、1994 年にタジキスタン、トルクメニスタンが脱退して中央アジア経済連合 (Central Asian Economic Union: CAEU) となり、1998 年にはタジキスタンが復帰して中央アジア経済協力 (Central Asian Economic Cooperation: CAEC) となった。

2002 年 2 月 28 日にはカザフスタンのアルマトイで創設条約が調印されて中央アジア協力機構に改称し、2004 年 5 月 28 日にはロシアが加盟した。2005 年 10 月にはウズベキスタンがユーラシア経済共同体 (EAEC) に加盟を申請し、2006 年 1 月 25 日に加盟が実現したことにより、事実上、OCAC は EAEC と統合され解体した。

【ユーラシア経済共同体】EAEC、EurAsEC

ロシア、ベラルーシ及び中央アジアの 4 ヶ国からなる経済共同体である。2000 年 10 月 10 日にカザフスタンのアスタナで創設条約を調印。

正加盟国：ロシア、ベラルーシ、カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス。

オブザーバー：ウクライナ、アルメニア、モルドバ。

【集団安全保障条約】CSTO

1992 年 5 月 15 日に旧ソ連の構成共和国 6 カ国が調印した条約。3 カ国の新規加盟、3 カ国の条約延長拒否を経て、2015 年現在、ロシア、アルメニア、ベラルーシ、カザフスタン、キルギス、タジキスタンの 6 カ国が加盟している。同条約は、計 11 条の条文から成り、加盟国の軍事分野における協力について規定している。2004 年には、集団安全保障条約機構に発展した。

【黒海経済協力機構】OBEC (Organization of the Black Sea Economic Cooperation)

黒海沿岸の国々の経済協力機関。1992 年 6 月 25 日、11 カ国の政府首脳がイスタンブールでサミット宣言に調印し、ボスポラス声明によって黒海における経済協力が誕生した。これは参加国間の調和と相互成長を助ける多国間政治と経済主導権のモデルとして、さらには平和を保障し、安定と繁栄で黒海地域で友好関係と善隣関係を促進することを目的にした。

黒海経済協力機構の本部である黒海経済協力機構恒久的国際事務局は 1994 年 3 月にイスタンブールに設立された。1999 年 5 月 1 日の憲章の発行による加盟で黒海経済協力機構は法的な主体性を獲得し、完全な地位を持つ地域経済機構「黒海経済協力機構」となった。セルビアが 2004 年 4 月に加盟し、加盟国は 12 カ国になった。

【上海協力機構】SCO

1996 年 4 月に初めて集った上海ファイブ（中華人民共和国・ロシア・カザフスタン・キルギス・タジキスタンの 5 カ国首脳会議）を前身とし、2001 年 6 月 15 日、中国の上海にて設立されたために「上海」の名を冠するが、本部（事務局）は北京にある多国間協力組織。

〔正規加盟国〕中国、ロシア、カザフスタン、タジキスタン、キルギス、ウズベキスタン、インド、パキスタン。〔オブザーバー〕モンゴル、イラン、ベラルーシ、アフガニスタン。

〔対話パートナー〕スリランカ、トルコ、アゼルバイジャン、アルメニア、カンボジア、ネパール

【経済協力機構】ECO (Economic Cooperation Organization)

10 カ国の中東および中央アジアの非アラブ・イスラム諸国から成る国際組織である。加盟国の域内での貿易や投資を促進することを目的とする。西洋における欧州連合（EU）に相当する。本部はイランのテヘランに所在。また、経済局はトルコ、科学局はパキスタン、文化局はイランに分割して置かれている。

【民主主義と民族の権利のための共同体】

旧ソビエト連邦で現在は事実上独立状態にあるが国際的承認が少ない、または無い国家が結成した共同体。加盟国は、アブハジア共和国（ジョージア内の自治共和国。国連加盟国の承認は 4 カ国）、南オセチア共和国（ジョージア内の自治州。国連加盟国の承認は 4 カ国）、沿ドニエストル共和国（モルドバ内。国際的承認は無い）、ナゴルノ・カラバフ共和国（アゼルバイジャン内。国際的承認は無い）。

【ミンスク・グループ】OSCE

ナゴルノ・カラバフ紛争（アゼルバイジャン領内でアルメニア系住民が居住するナゴルノ・カラバフ自治州をめぐるアゼルバイジャンとアルメニアの紛争）の解決をめぐって、1994 年 5 月、ロシア及び OSCE の仲介により停戦が合意され、OSCE ミンスク・グループ共同議長国である米・仏・露の仲介により和平の努力が続けられているが、解決の見通しは立っていない。

【米軍の中央アジア・中東への展開】

イラク、アフガニスタン、シリア、東欧（ルーマニア、ブルガリア、など）に米軍が基地を置き展開している。ウズベキスタンは、2001 年に米空軍の基地使用を認めた。しかし、2005 年米軍の撤退が完了。ウズベキスタンは、2006 年 EAEC 加盟、CSTO 復帰を決めたが、また、2012 年に CSTO 参加を取りやめている。キルギスは、米国のアフガニスタン戦争のため空港使用を認めていたが、米軍は撤退済み。ロシアは、アゼルバイジャンにレーダー基地を持っていたが、賃借契約を結び借用の形を整えた。

【国連による「中立国」承認】

トルクメニスタンは、独立以来「積極中立」の外交路線を取り、1995 年 12 月の国連総会で「永世中立国」の地位が認められた。

【まとめ】

- ・アゼルバイジャンは、最近、イスラエルおよびイランとの関係も強め、バランス外交をしている。
- ・CSTO の加盟国であるベラルーシは欧州で最初の国として 1998 年 NAM に加盟した。
ベラルーシ外務省の HP によると、NAM 加入により、NAM 諸国との経済関係構築にも資している。
ベラルーシは、NAM の会議で積極的な役割を果たし続けており、2011 年インドネシアでの NAM 首脳会議では、「NAM の今後 50 年のビジョン」作成においてもベラルーシの意図を盛り込んでいる。
また数（多数決）が重要になる国連の場において、2004 年に「ベラルーシ問責決議案」を NAM 諸国の協力を得て葬ることに成功した。
- ・アゼルバイジャンは、2011 年 NAM に加盟。
- ・アゼルバイジャンは、NATO に加盟はしないが、NATO の個別プログラムに参加している。
- ・国連により永世中立国と認定されたトルクメニスタンは、軍事同盟には参加していない。

追伸.

未熟者の素人がまとめました。誤り等があれば読者の皆様からご指摘いただければ幸いです。

【さらに勉強慕い方のための参考書】

- (1) 『アゼルバイジャンを知るための 67 章』(廣瀬陽子編、明石書店、2018 年 8 月)
- (2) 『コーカサスを知るための 60 章』(北川誠一編、明石書店、2006 年 4 月)
- (3) 『アルメニアを知るための 65 章』(中島偉晴編、明石書店、2009 年 5 月)
- (4) 『中央アジアを知るための 60 章』(宇山智彦編、明石書店、2010 年 2 月)
- (5) 『チュルクを知るための 61 章』(小松久男編、明石書店、2016 年 8 月)
- (6) 『イランを知るための 65 章』(岡田恵美子編、明石書店、2004 年 9 月)

- (7) 『コーカサス国際関係の十字路』(廣瀬陽子、集英社新書、2008 年 7 月)
- (8) 『ロシア苦悩する大国、多極化する世界』(廣瀬陽子、アスキー新書、2008 年)
- (9) 『未承認国家と覇権なき世界』(廣瀬陽子、NHK ブックス、2014 年)
- (10) 『ロシアと中国反米の戦略』(廣瀬陽子、ちくま新書、2018 年)

- (11) 『ユーラシアの紛争と平和』(広瀬佳一、明石書店、2008 年 6 月)
- (12) 『コーカサスと黒海の資源・民族・紛争』(中島偉晴、明石書店、2014 年 11 月)
- (13) 『多様性と可能性のコーカサス』(前田弘毅編、北海道大学出版会、2009 年 3 月)
- (14) 『グルジア 現代史』(前田弘毅、東洋書店、2009 年 2 月)
- (15) 『現代中央アジア 政治・経済・社会』(日本評論社、2018 年 5 月)

- (16) 『コーカサスと中央アジアの人間形成』(明石書店、2012 年 8 月)
- (17) 『現代中央アジアの国際政治』(湯浅剛、明石書店、2015 年 3 月)
- (18) 『チェチェン平和定着の挫折と紛争再発の複合的メカニズム』(富樫耕介、明石書店、2015 年 12 月)

- (19) Belarus and the Non-Aligned Movement (ベラルーシ外務省)
<http://mfa.gov.by/en/organizations/membership/list/d864553c380d0bc8.html>
The Non-Aligned Movement and Belarus
https://www.nlb.by/en/news/Book-exhibitions/the-non-aligned-movement-and-belarus_163123/

各組織への所属マトリックス

国	NAM	GUAM	CDC	CIS	EU	経済協力 機構(ECO)	NATO	米軍基地	上海協力 機構(SCO)	EurAsEC	CSTO	黒海経済 協力機構	国連認定 「中立国」
アゼルバイジャン	○	○	△	○		○					▼	○	
ウズベキスタン	○	▼		○		○		▼	○	▼	▼		
トルクメニスタン	○			△		○							◎
ベラルーシ	○			○					△	○	○	△	
アルメニア	△			○						△	○	○	
カザフスタン	△			○		○			○	○	○		
キルギス	△			○		○		▼	○	○	○		
タジキスタン	△			○		○			○	○	○		
ウクライナ		○	○	▼				○		△		○	
ジョージア(グルジア)		○	○	▼							▼	○	
モルドバ		○	○	○						△			
アルバニア							○					○	
エストニア			○		○		○	○					
クロアチア					○		○					△	
スロバキア					○		○					△	
スロベニア					○		○						
セルビア												○	
チェコ			△		○		○					△	
ハンガリー			△		○		○						
ブルガリア			△		○		○	○				○	
ポーランド			△		○		○	○				△	
ラトビア			○		○		○						
リトアニア			○		○		○						
ルーマニア			○		○		○	○				○	
ロシア				○					○	○	○	○	
アフガニスタン	○					○		◎	△				
イラク	○							◎					
イラン	○					○			△				
シリア	○							◎					
パキスタン	○					○			○				
ヨルダン	○												
レバノン	○												
イスラエル												△	
トルコ						○	○	○				○	

《注》 ◎参加、△オブザーバ、▼脱退

リストに挙げた国は旧ソ連地域の全国家を含んでいない



コーカサス全図



中央アジア地図



アゼルバイジャン(とナゴルノカラバフ)地図
出典: Wikipedia



ジョージア(グルジア)地図
出典: Wikipedia